

本社ビルを省エネ化

NEDO事業 県内初導入 年33%の削減期待

環境問題に対する関心の高まりを受け、省エネルギー対策に取り組んでいる富士オート（前橋市本町二丁目、斎藤社長）は、本社ビルを改修して建物全体の省エネ化を図る高効率エネルギーシステムを導入する。この計画は経済産業省の外郭団体、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業」に県内で初めて認定された。同社は十一月にも着工する予定で、来年三月の完成を目指している。

同社の本社ビルは、鉄骨造りの地下一階地上九階建て。現在、同社のグループ会社のほか、銀行や保険会社、工務店なども入居している。すでに建設から二十二年が経過し、熱源、空調、換気、照明などの各設備は

経年劣化により効率が低下。ランニングコストの上昇、設備の信頼性や安全性が課題となっていた。

新システムは、本社西側駐車場の地下に蓄熱槽を新設。熱源には低料金の夜間電力でまかなう「夜間電力

利用水蓄熱システム」を導入し、空調も夜間に蓄熱した冷水や温水を利用する。空調機の分割設置や各フロアごとの温度設定など、利用者ニーズに合わせた制御が可能でコスト削減にも

つながるという。また、換気システムは吸気で現状の36%、排気で40%までファン動力を抑制。照明には高効率インバーターと人感センサーを採用することで、利用を必要最小限にとどめる。すべての設備は、ビル内

でのエネルギー使用状況のデータがリアルタイムで分かる「統括システム」によって運転を管理。同社は、新システムにより年間約33%のエネルギー削減効果が期待できるとみている。改修費は約二億七千万円。

NEDOの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業は、民間施設

の省エネ対策の一環で、建築物に高効率エネルギーシステムを導入し、その後三

年間継続して効果の報告ができる建築主に対して費用の三分の一を補助する。本年度は全国の二十件についての交付を決定している。

斎藤社長は「今回のNE

DO採択を機に、富士オートグループ全体として、地域社会とともに環境問題への取り組みを本格化していきたい」としている。